

佳作

私の人生

愛知県名古屋市立大森中学校三年 高見 心音

私は場面緘黙症です。私の場合は症状がそれほど重くなく、家族以外の人前では話せることができない程度です。けれども、私には人と思うようにコミュニケーションをとることができません。その症状が出始めたのは小学校の入学式の時からです。その前までは、内気でありながらも問題なく喋っていて、幼稚園では当たり前誰とでも話していました。そのため話すコミュニケーションをしてごく自然に友達もいました。

しかし、小学校に入ってからは、もう本当に固まってしまうました。体はそれほど固まっていらないのですが、心の気持ちは小学一年生のころは私にとってすごく固まっていました。それから私は先生やクラスメイトにずっと助けられました。例えば先生はクラスで、「両手を出して、いいか、ダメか左手右手で話そう。」

と言ってくれました。そうしたら、みんな私に笑顔でそれを使って、私がいいかダメかをちゃんと分かるようにして、それで会話ができるようにコミュニケーションをとりにきてくれました。そうしてくれることが簡単にはできなくて、いかに優しいのかを中学三年生になるまで気づくことができませんでした。小学校では、グループ作り、グループ内の活動、また学芸会もあるので、私は本当なら非常に困るはずですが、クラスメイトのみんなや先生たちがすごく優しくしてくれて、色々考えてくれて困ることはほとんどありませんでした。少しでも困ったらみんなすぐに助けてくれて、その本当の優しさに最近気づき心を動かされ、みんなや先生たちには感謝の気持ちしかありません。こうして私はすごく助けられてきて、私もそういうふうに困った人がいたらすぐに助けたいと思いました。

いつも助けて支えてもらってきたおかげで、私は中学校三年生の四月の最初の授業があるとき、英語ペアで話すことができました。それから次にもできるように非常に頑張っていました。その二回目、三回目は特に不安やプレッシャーを感じました。それでも頑張ってそこを乗り越えたから、クラスの子と話せるようになりました。すると、今までできな

かった教育相談や三者懇談も問題なく話すことができました。教育相談と三者懇談は、前へ前へ頑張れるようになっていた四月の終わり頃、できるかな、話せるかなといった気持ちですごく不安だったので、一学期のことを振り返る一学期の終わりに、私はこれほど楽しくて充実した学校生活はないことに気づきました。その上私は、小学校でとても助けてくれた友達にも話すことができました。みんな喜んでくれました。そんな友達がいることの大切さにも気づきました。

こうやって話して友達とコミュニケーションをとることは本当に楽しいです。私はできなかったこともほとんどできるようになって、自分自身成長もできた今、人生で一番素晴らしい学校生活だと思います。